

東京大学附属図書館改善計画の
趣意とその経過

東京大学附属図書館長

岸 本 英 夫

昭和38年11月9日(土)

改善計画の目的

近代的な大学が、その研究と教育の目的をはたすためには、大学内に必要な研究図書が十分に備えられていなければならないことは、いうまでもない。しかし、単にそれだけではない。全学の教授、学生、研究者が、全学の蔵書のすべてを、必要に応じて効果的に利用することができるような態勢にあることが、何よりも望ましい。そして、そこに、近代的大学図書館の役割りがある。大学図書館の役割りは、ただ、大学の図書を所蔵しておくだけではなくて、図書を活用させるはたらきそのものこそ、その使命である。

今回の改善計画の根底をなしたのは、このような単純な考え方であって、だれにでも納得できるわかりやすい理論以外の何ものでもない。

たとえ、今日のごとく、東京大学が発展して、その機構が複雑をきわめ、部局図書館や研究図書室の数が300を超えることになろうとも、また、その全蔵書数が累増して、270万冊におよぼうとも、決して大学の中で、この単純な理論が見失われることがあつてはならない。もしそれが、いちじるしく妨げられて、学内の図書が各処に死蔵されるような事態に陥ったとしたら、これは、大学にとって致命的な一大事である。

ややもすれば、こうした事態に陥ろうとする学内の図書

事情に反省を加え、大学の蔵書の流通が、より自由になり、学生や研究者が参考文献をたやすく利用することができ、学内の図書が活発に活用されるような望ましい状態に、何とかして一步でも近づこうとするのが、今回の改善計画である。

その目的を実現するためには、いろいろな工夫をこらし、さまざまな角度からの改善の計画を試みた。しかし、これを大きくまとめると、次の四つの焦点に集中されるであろう。

1. 全学総合図書目録 130万枚（ユニオンカタログ）の作成
2. 東大の機構としての附属図書館体制の確立、および部局図書館の連絡調整
3. 指定書制度の強化
4. 総合図書館（中央図書館の新名称）の近代的改装

以上の4項目は、実は、相当に大仕掛な計画をきわめて単純化した要約である。その一つ一つを、細かく検討すれば、広汎多岐にわたるものがある。この改善計画のために投じた経費は総計3億円をこえた。この経費の大部分は、文部省を通しての国費によったが、その中には、ロックフェラー財団の寄付約9,000万円、その他の個人の好意に

よる寄付を含んでいる。今回の改善計画が、その規模の大ききさにもかかわらず、最初の発想以来、約3ヶ年半という比較的短時間で遂行され得たのは、ひとえに関係諸方面の深い御好意と厚い御援助によるものであろう。この式典にあたり、東大附属図書館関係者一同の名において、深い感謝の意を表する次第である。

東京大学附属図書館改善経過日程 — 1963.10 —

1960年

- 4月 △岸本文学部教授，附属図書館長に就任。図書館近代化の決意を表明
- 6月 △ロックフェラー財団，東大図書館改善のための実態調査費（約72万円）図書館幹部職員の渡米視察費（約305万円）の寄附を決定
- 7月 △岸本館長渡米。2カ月にわたってアメリカ大学図書館を視察。9月末帰国
- 10月 △全学図書館（室）の実態調査のため臨時調査室をおく
△6日，第1回全学図書館連絡集会開催
- 11月 △1日，実態調査を開始，12月に完了
△4日，第2回全学図書館連絡集会開催
△10日 青野館長補佐・男沢整理課長および友野編成掛長がアメリカ大学図書館視察のため渡米。12月末帰国
- 12月 △14日，Swank 博士（アメリカ図書館協会国際局長）来館
△16日，第3回全学図書館連絡集会開催（Swank 博士を囲む懇談会）

1961年

- 1月 △附属図書館に部長制がしかれた。青野館長補佐が事務部長に，永峰参考主任が閲覧課長（従来の運用課を閲覧課と改称）にそれぞれ昇任
△下旬，第1次改善計画案を作成
- 2月 △7日，Metcalf 博士（ハーバード大学名誉図書館長）が改善計画立案の援助を行なうため来館，第1次計画案の検討をはじめ。14日いつたん帰米
△13日，第4回全学図書館連絡集会開催（Metcalf 博士を囲む懇談会）
学士会館において
- 3月 △15日，Metcalf 博士，第2回目の来館，2週間にわたって改善計画を検討し，30日帰米

- △23日, Metcalf 博士の講演会を開く。演題「近代大学図書館の在りかた」(附属図書館・全国国立大学館長会議共催)薬学部において
- △27日, Metcalf 博士公開講演会を開く。演題「大学図書館の生長とともになう問題点」(教育学部・附属図書館共催)文学部において
- 4月 △改善計画最終案を検討, 5月末完成
- 6月 △27日, 改善計画案, 東京大学評議会において承認
- 7月 △改善3カ年計画予算要求書を作成。総額約25,800万円, 内国費約18,000万円(文教施設費約13,900万円, 設備費等約4,100万円)ロックフェラー財団寄附金約7,800万円
- 9月 △ロックフェラー財団, 東大図書館改善のために, 援助資金をおくすることを理事会で正式に決定した。(総額8,460万円, 初年度分1,296万円)また農学部総合農学図書館建設の援助も併せて承認(15万ドル)
- 10月 △1961年度分改善費(国費)640万円が決定される(一般閲覧室の改造とキャレルの新設等)
- 11月 △3日, 医学図書館開館式がおこなわれた。これよりさき, 開館に備えて総合図書館より備えつけの医学関係指定書約1,300冊を移管
- △Keys 博士(メイヨー・クリニック図書館長)医学図書館開館式に出席のため来日, 4日, 総合図書館で職員と懇談会
- △15日, 全学総合目録作成の作業はじまる(滞貨カードの整理に着手)
- △18日, 岸本館長, 国連ハマースホルド図書館開館式ならびにシンポジウムに招請され渡米, 24日帰国

1962年

- 1月 △1962年度政府予算案に東大図書館改善予算が組まれた
- 2月 △1日, 改善計画の第一歩として, 一般閲覧室を改装し開架閲覧室が完成, 総長が臨席して開室式が行なわれた。(さしあたり指定

- 書約 6,700 冊，一般書 16,000 冊を収容し 3 万冊を目標とする)
- △ 5 日，総合目録に繰込まれる部局図書室の目録カードの撮影を開始
- △ 17 日，撮影されたフィルムからカードを複製するため，ボストンのゼロックス社に第 1 回のフィルムを送る
- 3 月 △ 2 日，茅総長，緒方商議会議長・伊藤同小委員会委員長・岸本館長をともない教養学部図書館を視察
- 4 月 △ 総合図書館の機構改革が正式に決定し，3 課 16 掛となった。(新設された総務課長に黒住武調査室長，整理課長に田辺広新聞雑誌掛長がそれぞれ昇任し，閲覧課長に男沢淳整理課長が転出，永峰光名閲覧課長は 3 月をもって定年退職)
- 5 月 △ 1 日，部局と総合図書館の間の図書運搬のため(登録と複写文献集配のため)軽三輪車を購入，活動を開始
- △ 各部局と総合図書館との協力によって，主として研究者のための専門別閲覧室を設置する計画が実現することになった。アジア関係の研究所・研究室との協力によるアジアセンター，新聞研究所との協力によるプレスセンター，法学部との協力による外国法資料センター，文学部との協力による語学研究センターがそれで，それぞれ開設準備委員会が設けられ準備を開始
- △ 茅総長，渡米してアメリカの各大学を視察し，帰国後大学図書館の役割の重要性を強調
- 6 月 △ 4 日，大学院学生のためのキャレル 125 席が開設された。申込みは 280 名に達し，はやくも不足の状態を示した
- △ 農学部図書委員長猪熊教授および佐竹事務長，ロックフェラー財団の招へいにより，アメリカ各地の農学図書館視察のため渡米。
- 7 月 22 日より 1 カ月間各地を視察，9 月上旬帰国
- 7 月 △ 指定書制度の強化充実のため，本年度指定書購入費として 1 千万円をあてることを決定。(うち教養学部図書館に 400 万円)
- △ 12 日，第 5 回全学図書館連絡集会在開かれた。本格的な組織化の

第一歩である

△プレスセンターの一角に国連資料コーナー設置の方針を決定。

(国連寄託図書館としての申請を行なう)

△31日、全学図書館連絡集会第1回運営委員会開く

△改装工事に対応して、地階の未整理本の取片付け、および総合目録作業の推進のために、延900名の夏期学生アルバイトが従事
(7,8月)

8月 △16日、部局図書室目録カードの撮影を完了。撮影カード枚数、約66万枚

△総合図書館内部改装計画62年度設計最終案が完成。27日入札の結果鈴木工務店に落札

9月 △10日、改装工事(第1期)始まる。(地・4・5階)

10月 △1日、全学的な図書館活動に関するインフォメーションの提供、職員の相互理解のために、東京大学附属図書館月報"図書館の窓"を創刊

△16日、全学図書館連絡集会第2回運営委員会で、受入事務の改善および調査の改善に関する二つの専門委員会を設けることを決定

△20日、岸本館長、プリンストン大学招聘教授として渡米、この機会に改善経過をロックフェラー財団に報告

△文部省に対し、昭和38年度文教施設費(改装工事費)として約1億円を要求

11月 △7日、受入事務の改善に関する委員会第1回開催

△昭和37年度の総合図書館の改装に伴う設備費として約1,344万円の配当が決定

△12日、学生への館外貸出を開始。試験的な試みとして開架室の図書のみを貸出し、期間1日、冊数2冊とする

12月 △3日、調査の改善に関する委員会第1回開催

△ロックフェラー財団より1962-63前半期の援助資金として2,160万円の送付を受ける

△外国法文献センター(通称外国法資料センター)の新設を文部省

で正式に決定

△27日～1月6日まで年末年始の閲覧停止期間，学生に対し，図書
の長期貸出を行なう（利用者延 256 名）

1963年

- 1月 △新学年度に備えて指定書購入の準備を開始
△図書館雑誌2月号で，東大図書館の改善計画を特集
△外国法資料センターの予算通過を契機として，開設準備委員会を
解消，あらたに運営に関する準備委員会を設ける
△文学部と総合図書館より構成される語学研究センター開設準備委
員会発足
- 2月 △総合目録編成のための複製カードの最後のロールが着く。総計
144ロールで，カードの複写をはじめから満1年を要し，ゼロ
ックス社への支払は\$16,667⁹⁸であった
△25日，大学図書館の充実に関して意見を交換するため，国立七大
学図書館長が文部当局と懇談（大臣，次官ほか数名が出席）
- 3月 △西側1階工事完成，整理業務を1階に集中
△25日，昭和38年度施設改装実施計画の作成始まる
△全学教官に総合図書館利用票を配布
- 4月 △学生に対し，館外貸出についての希望調査を行なった結果をもと
にして，学生用図書の貸出期間を1日延長し2日とする
△総合図書館“利用のしおり”1963年版を作成
- 5月 △1日，新閲覧室（参考室，日刊新聞閲覧室，雑誌室，2階学生閱
覧室）を開室，同時に，出納台，文献複写受付も1階に移動
△4日，茅総長を招き，正面玄関にて昭和37年度工事終了の茶話会
△7日，全学図書館連絡集会第3回運営委員会，全学の図書室職員
に図書館利用票を配布
△ゼロックス914を設置し，日常業務におけるカード複製を開始
△12日，ハーバード大学図書館副館長 Douglas W. Bryant 氏全国国立
大学図書館長会議および東京大学附属図書館の招請によって来日，
6月30日帰国

- △17日, Bryant氏, 全学図書館連絡集会運営委員会で講演, 18日, 商議会委員と懇談
- △20日, アジア資料センターに職員3名配属さる
- △25日, Bryant氏, 東京地区講演会 医学図書館において, 演題「大学図書館の将来を語る」
- △昭和38年文教施設改装工事費決定(5,516万円)また, 農学図書館建設工事費1,697万円が決定した
- △教養学部図書館建設計画案まとまる。本省に対し概算要求提出
- 6月 △5日, 外国法資料センター仮業務を開始
- △8日, 第69回図書行政商議会において, 2年間慎重に審議が続けられていた「東京大学附属図書館基本規則案」「東京大学図書行政商議会規程改正案」「東京大学附属図書館長選考内規案」の3規則案がまとまり, 評議会に提出することが決定した
- △図書館の書庫増築に関連して, 関係5部局の総合計画による要望書を作成, 概算要求を行なう
- △25日, Bryant氏の総合図書館の職員を対象としたセミナーを開催
テキスト「ハーバード大学の図書館機構」
- 7月 △総合目録編成および第Ⅱ期工事に入る準備のため, 夏休期間中アルバイト延約1,300人を動員
- 8月 △15日, 昭和38年度改修工事の入札, 第Ⅰ期工事にひきつづき鈴木工務店に落札
- △エレベーター改修および暖房施設費として3,753万円の配当決定
△改善計画の一環として新たに大学資料の保存のため, 地下書庫の一部にエレコンパックを設けることに決定
- △第Ⅱ期(昭和38年度)工事着工
- 9月 △17日, 評議会において, 東京大学附属図書館基本規則案, 図書行政商議会規程改正案, および附属図書館長選考内規案が正式の承認を得, 即日発効となった。今後は, 学内の図書館を総称して附属図書館と呼び, 従来の中央図書館(通称)を総合図書館と称することになった
- △21日, 第71回図書行政商議会で, 「総合図書館に関する小委員会」を設置することを決定。10月3日, 第1回小委員会を開催